

Rotary



# 白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2022~2023年度クラブ目標

『想像しよう、未来のロータリー  
創造しよう、これからのクラブ』



イマジン  
ロータリー

会長 高 阜 裕  
幹事 車 田 裕 介



2022-23年度国際ロータリーテーマ

## 第1742回例会

令和5年1月12日(18:30~19:30)

○ソング

- 四つのテスト

○スマイルBOX

- 高阜裕会長（今週は8日に消防出初式と二十歳を祝う集いに参加して参りました。新成人からエネルギーをいただきて来た所です。本日は金田会員による職業奉仕卓話、ありがとうございました。）
- 金田昇会員（本日は卓話をさせていただきました。勉強になりました。）
- 運天直人会員（本年のスマイルの目標達成を祈念してスマイルいたします。）
- 諸橋和典会員（先週は初打ゴルフ優勝、ポール・ハリス・フェロー、誕生日プレゼントと、たくさん頂き物ありがとうございました。目立つように今週スマイルしてみました。）
- 沼田重一会員（明けましておめでとうございます。今年は2年目になりますので、クラブの発展と自分の為にも努力しますので、よろしく願いいたします。）
- 片倉義文会員（明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。1月15日は、満80歳の誕生日です。）
- 佐藤清作会員（新年おめでとうございます。今年もよろしく。先週の新年第一回の例会に欠席してしまいました。結婚記念日の祝いありがとうございました。）
- 永野文雄会員（職業奉仕委員会 金田昇地区研修委員さん、卓話ありがとうございます。大変勉強になりました。）
- 鈴木孝幸会員（明けましておめでとうございます。先週の例会は会社行事で欠席致しました。失礼致しました。金田PGA、卓話ありがとうございました。皆様、今年も良きロータリーライフを送りましょう。）
- 中目公英会員（あけましておめでとうございます。本年もよろしく願います。今年の正月はあたたかで、行動制限もない3年振りのもので、南湖神社に初詣にお参りに行かれる方も多く、賑やかなものとなりました。）
- 関谷亮一会員（金田昇前ガバナー補佐の職業奉仕卓話ありがとうございました。諸用のため早退をさせていただきます。）
- 佐藤幸彦会員（あけましておめでとうございます。今年もよろしく願います。）

### ▶第1742回例会出席状況 (R5年1月12日)

|                                    |       |
|------------------------------------|-------|
| Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数                  | 51名   |
| Ⓑ 出席免除の適用正会員数                      | 14名   |
| Ⓓ 全正会員数                            | 65名   |
| Ⓒ ①の出席者数                           | 24名   |
| Ⓔ ①のメイクアップ者数                       | 0名    |
| Ⓔ ②の出席者数                           | 11名   |
| Ⓖ = ③ + ④ + ⑤<br>(メイクアップ補填後の出席会員数) | 35名   |
| Ⓕ = ⑥ - (⑦ - ⑧)                    | 62    |
| Ⓖ = ⑥ / ⑦ × 100<br>(例会出席率)         | 56.5% |



▶例会日: 第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30~19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

## 本日のプログラム

### ■会長の時間



高島裕会長

皆さん、こんばんは。また、前回の例会に参加できなかった会員の皆さん、改めましてあけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひしたいと思います。今週は1月8日に、消防の出初式のほうに招待をいただいて参加してまいりました。規律訓練正しい行進を見た後に、コミネスの中で出初式が開催され、本当に一年の幕開けというふうな形でございました。また、同じくその日の午後には旧成人式、今は二十歳の集いという名前で成人の皆さんをお祝いする会が開催されました。なかなかオンラインで、開催できなかった成人式、いわゆる二十歳の集いですが、今年度よりリアルタイムで行われて、本当に華やかな着物姿が非常に大変際立って嬉しい限りでございました。若い方々からエネルギーを貰ったなというふうな感じがございました。そういった華やかな新年にはふさわしいお話がある反面、今日も白河市においては交通死亡事故があったということでお話を伺っております。ここ最近、死亡事故が多いので、本当に皆さんも車の運転には気を付けていただいて、自分が注意してても相手が注意してない場合が多いということもありますので、本当に充分気を付けてくださいということで。また、国内においてはコロナの死者数が489名ということで、全国で過去最多を記録しております。ちょっと油断はしてきているものの、その辺が過去最多というイメージがなくて、本当に感染対策には皆さん十分に注意していただければなというふうに感じております。ということで、今月はロータリーでいう職業奉仕月間ということでですね、今日はこの後金田パスト会長の卓話があります。私なりにちょっと勉強はしてきたんですが、金田パスト会長におかれましては職業奉仕の卓話の資料見せていただきましたら、下調べしてきたことが全て書かれているので、私のお話するようなどころではなく、金田パスト会長のほうからお話をさせていただくようなことになってしまうのかなと思います。職業奉仕という言葉が他の団体と違ってということは、ロータリーの綱領に職業奉仕という言葉が書かれているのが一つとして大きな他の団体との違いだというふう聞いております。また、自身の職業の品位を高め、高い道德観を持って基準を持ちながら理想とするところに近づくというのは、職業奉仕の一番の大切な部分のかなと感じております。一括りに職業奉仕というと、いろんな範囲で職業奉仕はあります。例えば、小中学生、あるいは高校生を自分の会社に招いて職業体験をしていただく、これもやっぱり職業奉仕の一つであるのかなと考えております。最も我々が一番大切にしなければいけないのは、自分の職業に本当に自信を持って責任

を持って、地域のためにその力を還元できるというような方向を持っているかどうかということだと思います。そんな中で、一番私なりに感じるもの。やはり、これは職業奉仕であれ社会奉仕であれ、すべてにおいて四つのテストに繋がっているのかなというふうに思っております。本当に自分のしてる職業が真実であること。真実であるかどうかで真実であること。そして、社会の皆に公平であること。社員の皆さんにも公平であること。そして、仕事を通じて好意と友情が深められるかどうか、それも含めてということになってくると思います。そして、みんなのためになる。これが当たり前の事であって、本当に職業奉仕するというのが、ロータリーの理念と本当にリンクしてるのだなというふうに変更して感じるところでございます。今日はそういった部分も含めて、金田パスト会長の卓話を聞いて更にロータリーのことを詳しく、そして職業奉仕の事を理解していただいて、ロータリーからそして学んだものを自社に持ち帰り、会社のほうに生かして地域還元ができればなというふうと考えております。本日は職業奉仕卓話ということでお世話になりますが、どうぞ金田会員、よろしくお願ひしたいと思います。

### ■幹事報告

車田裕介幹事

- 須賀川ロータリークラブ会長 藤田元、実行委員会 渡邊達雄：国際ロータリー第2530地区須賀川ロータリークラブ創立60周年記念式典のご案内
- 福島民報社：広告掲載紙
- 福島民友社：広告掲載紙

### ■委員会報告

○会計

寺島由和会員



皆さん、こんばんは。会計からご報告がございました。今月は会費の請求月となっております。1月25日に皆様のご指定の口座から会費のほうを引き落としとさせていただきます。それから、直接お振込みいただく会員の皆様もご準備のほうよろしくお願ひいたします。後程、事務局の吉田さんからご案内状が届くかと思っておりますので、皆様ご対応のほうよろしくお願ひいたします。

### ○2021～2022年度表彰



表彰状  
マルチプル・ポール・ハリス・  
フェロー第4回  
佐藤清作殿



表彰状  
新米山功労者  
鈴木孝幸殿

■本日のプログラム  
職業奉仕委員会担当例会

○地区研修委員会

金田昇会員



皆さん、こんばんは。今日は職業奉仕卓話をしろということで、吉野職業奉仕委員長からお電話いただきました。プログラムに入れていただきました。先程、会長のほうから職業奉仕についてご説明がありましたので、ほとんど

それで終わりかなというふうな思いがあったんですが、まあ準備してきたものもありますので、多少お時間をいただいております。くしくも今日は、ロータリーソングが四つのテストということで、ロータリークラブ活動の中にも大切な経営者として持っているべき資質の一つが四つのテストというふうによく言われますので、タイムリーな歌だったなと思いながら、ハーバード・テラーさんを思い出しながら聞かせていただきました。さて、ロータリークラブにとって職業奉仕とは何かということを前提として考えた時に、私たちは経営者といわれるある種会社を営んだり仕事を行っての者にとって、私は渋沢栄一さんの「論語と算盤」やピーター・ドラッカーの「経営の哲学」などを学びながら自分の経営をしてみました。ただ、それは経営という一つの物事であって、経営者が持つべき資質と経営思考ということではそれで足りるわけですが、ロータリークラブに入ってちょっと違ったなと思うのは、ロータリークラブはそれらを社会において実践していくための組織であったり、自己研鑽と理念の確立ですね。テクニカルなところではなくて、経営者とはどうあるべきかというような理念を確立するための組織活動だったなというふうに思っております。本日は、ロータリークラブの本質というものを職業奉仕の面からひも解くために、ポール・ハリスやアーサー・シェルドン、それからフランクリン・コリンズ、ガイ・ガンディーカーといわれるロータリークラブ活動の草創期段階にいろいろな思想を確立していった方たちのお話を交えながらお話をさせていただきます。一つ目です、一番目に見ていただきたいのはロータリーの理念の根本になるものというのが、決議23の34第1条と

ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。  
この哲学は - 「超我の奉仕」 - の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践理論の原則に基づくものである。

決議第23-34 第1条

いうのに書かれております。ロータリーは基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものであるということ。これは私利私欲と他利他欲といふのかな、自分と他人に奉仕することの矛盾を一つきちんと論理立てて、それは矛盾してないですという事を考えてくものであろうと思います。その二つの言葉があります。「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉が、アーサー・シェルドンの言葉があります。これが実践理論の原理に基づくものであります。ロータリークラブの草創期というのは、実は100年ちょっと前にロータリークラブができたわけですが、この中で職業奉仕の原理というのがアーサー・フレデリック・シェルドンという方が



大きな役割を果たしております。これをひも解くことによってロータリーの歴史、草創期のこれだけ世界中に120万人の会員を擁する経営者の集まりであり、その人たちを魅了するロータリークラブ活動って何かということについてちょっとわかっていただけたらなというふうに思っております。皆さんご存じのとおり、ロータリークラブは1905年に弁護士のポール・ハリスと3人の友達がシカゴでお互いの胸襟を開いてどんなことでも語り合える仲間を作ろうという親睦を目的にスタートしたものであります。その後、この集まりを

**1905年 職業人の「親睦」を軸にロータリークラブがスタートする（シカゴ）**  
1906年1月シカゴロータリークラブ定款（一部抜粋）

第1条 名称  
本会の名称をシカゴ・ロータリークラブとする。

第2条 目的  
目的は以下の通りとする。  
1. 会員の事業上の利益の促進  
2. 通常、社交クラブに付随する良き親睦とその他の特に必要と思われる事項の推進

第3条 会員資格  
第1節 次の各項の何れかに属する者を本クラブの会員とする  
第1項 シカゴ市において合法的な事業に従事している経営者、共同経営者、または会社役員  
第2項 生命保険会社の代表者、代理店および販売店の資格を持つ者  
第3項 運送業者の代表者、総代理店および総販売店の資格を持つ者

本会の会員がすでに代表者を務めている、前述の経営者、共同経営者、会社役員、代理店または販売店に属する職業に従事する、第1項および第2項に該当する者は会員になることはできない。本会の会員がすでに代表者を務めている、ライバルまたは競争会社を代表する、第3項に該当する者は会員になることはできない。候補者の事業が現職な会員の事業と競合しないしは現職する疑いのある場合は、当該会員がそれに賛同しない限り、その候補者を会員として選出しないものとする。

お互いの商売に利用しようという物質的相互扶助という互惠関係の考え方が生まれてまいります。1906年に制定されたシカゴクラブの定款では、クラブの目的として会員の事業上の利益の促進。もう一つは、通常社交クラブに付随する良き親睦となっており、草創期は事業の繁栄と親睦というものを目的にクラブ運営がなされておりました。ここで弁護士のポール・ハリスは同業者間の親睦の難しさを痛感していました。同業者間でですね。なので、会員資格は一業種一人に制限をし

ております。これがロータリーの職業分類制度の始まりであります。長くこれは一業種一人というのが続いておまして、それが会員数の減少に伴い会員数を確保するためという目的もありまして、一業種複数の会員でもいいですよというようなことになってきたのは近年であります。それまでしばらく100年近くはこの形で続いてきたということでありまして、次に1906年の後半、創立でちょっと経ってからのんだけど、シカ

**1906 ドナルド・カーター 「奉仕」の考え方を持ち込む。**  
**シカゴロータリークラブ定款**

目的  
 第1 本クラブ会員の事業上の利益の増大  
 第2 通常社交クラブに付随する親睦およびその他の特に必要と思われる事項の推進

**+ 第3条 シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める**



ドナルド・カーターが提案した1909年に市役所と公立図書館の間に二つの公衆便所がロータリー最初の社会奉仕事業だと言われている



ゴクラブは大きな転換点を迎えます。そのきっかけとなったのは、入会を誘われたドナルド・カーターという方が単に飯を食う会なら入会をお断りする。何か有意義な事をするならば、大きな将来性を持っているので何かをするべきだ。それなら入会するという事で、シカゴクラブに對外的な奉仕をするべきだという意見を述べました。ドナルド・カーターの考えに同調したポール・ハリスは、1906年12月にシカゴのシカゴクラブの定款を改定し、目的の第3項にシカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に深めるということを追加いたしました。これによりシカゴロータリークラブは、親睦と奉仕ということが融合したクラブとなってまいります。1909年には、ドナルド・カーターが提案し市役所と公立図書館の前に公衆便所を設置しました。これがロータリーの最初の社会奉仕事業だと言われております。そこで、シカゴロータリークラブ第3条に次のような文章を加えたこととなります。シカゴ市の最善の利益を推進し、その市民としての誇りと忠誠心を普及せしめること。誇りと忠誠心、こういう事を付加していきました。次に、積極的に行われた会員同士の互惠関係。互惠取引

**積極的に行われた会員同士の互惠取引**

- 設立当初は会員同士の互惠取引は積極的に行われた。
- 1910年に印刷されたハガキ型報告書には会員同士の商取引や斡旋の結果を記入して郵送義務。
- 会員間商取引の明細を例会で報告する。
- 会員間の商取引の機密保持
- 1911年全米のロータリークラブ連合会の組織表には、Local Trading Committee, Intercity Trading Committee, National Trading Committeeが設置されており、ロータリアン間の商取引の活性を図っていた。




© しかし、1912年になると、定款から親睦と事業上の利益の促進という目的が減する

についてちょっとお話させていただきます。しかし、これまでに会員に利益をもたらしてきた物質的な相互扶助。互惠関係ですね。突然提唱された社会奉仕活動の概念理念とは大きくかい離してましたので、会員の中でいろいろな話し合い、論争が起こったそうでありまして。そういう中で、ロータリー会員同士の互惠取引はそのまま引き続き数年間は積極的に行われまして、統計係という役職をクラブに内に作りまして、会員同士の商取引や仕事の斡旋などの結果を記載して、これを公表するというような活動をやっております。このスライドの中の右の下のほうですね。これがそういうふうな事を、こんな取引をしたよというような記録を残してたようであります。ここでアーサー・フレデリック・シェルドンが出てくるわけですが、しかし、

**1908年 アーサー・フレデリック・シェルドン と チェスレー・ペリー (シェルドンスクール卒業生) がシカゴロータリークラブに入会**



**アーサー・フレデリック・シェルドン**  
 ミシガン大学経営学部卒業 (小学校から大学までトップの成績だった (本人の言葉))  
 1902年にシカゴでシェルドンスクールを設立し、経営学・販売学を教えていた。  
 シェルドンの奉仕の奉仕の理念は既に完成していた

継続的な事業の発展を得るには、自分の儲けを優先するのではなく、自分の事業を通じて社会に貢献する意図を持って事業を営む、すなわち会社経営を経営学の実践と捉え、原理原則に基づいた会社経営をすべきであると考えており、また良好な労働環境を提供するのは資本家の責務と考え、資本家が利益を独占するのではなく、従業員や取引に関係する人たちと再配分する事が、継続的な利益を得る方法だと考えていた。



シェルドンのシカゴクラブ入会の理由  
 ロータリーという経営者が集まる組織を通じて奉仕理念を広げることの魅力を感じたからでは (2680地区PG田中毅氏)

その後このような相互補助はロータリークラブの目的や存在理由について疑問を持つ人が出始めました。ロータリーの新しい理想を考え、それを明確にする必要性が出てきます。1908年に、この任務を担うような委員長として入会わずか1か月のアーサー・フレデリック・シェルドンという方がいるんですが、この方は経営学を学んできた方でありまして。彼は継続的に事業の発展をさせるには、自分の儲けを優先するのではなく事業を通じて社会に貢献する意図をもって事業を営むという原理原則に基づいた会社経営をすべきであるというふうに唱えております。また、良好な労働環境を提供するには、資本家の責務として資本家が利益を独占するのではなく、従業員や取引に関係する人たちと再配分することが継続的に利益を得る方法だと考えておりました。まさしく今の現代においては、当たり前のことになっておりますが、事業はすべてのステークホルダーのためにあるということでありまして。後に、これがここにあります四つのテストのほうに進化して受け継がれたんだと思います。そんなこんなで1910年には、全米ロータリークラブという連合会というのが出来まして、16クラブ1600人ほどの会員で形成されておりました。ここでロータリーのシカゴ大会が開催されるわけですが、ここでアーサー・シェルドンが商業秩序委員会の代表委員長として、経営学を基本

1910年 第一回 全米ロータリー大会 (シカゴ)  
16クラブ (ロータリー会員数1600名)

アーサー・フレデリック・シェルドン

1911年 第二回 全米ロータリー大会開催 (ポートランド)  
『人間は、英知の光に照らして、正しい行為は報われる。職業は人類の奉仕の科学である。最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』  
『He profits most who serves best』  
この大会で採択された「ロータリー宣言」の結語として採用される。

職業奉仕の理念

2004年の規定審議会で「They profits most who serves best」に、また2010年の規定審議会で「One profits most who serves best」に変わりましたが、日本語訳「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」は変わっていません

にした奉仕哲学に関するスピーチを行っております。彼は職業倫理の重要性を強調して、腐敗や不正は排除しなければならないことを明確にしました。ここに書いてあります、人間は英知の光に照らして正しい行為は報われる。職業は人類の奉仕の科学である。最もよく奉仕する者、最も多く報いられるということがわかるようになります。ということで、ここで初めて「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」という言葉が出てまいります。このスピーチは素晴らしかったということで非常に反響を呼んだわけですが、その後この言葉がロータリー宣言の中で標語として採択されるようになりました。次に登場してくるのは1911年くらいなんですけども、ベンジャミン・フランクトル・コリンズという方が登場してまいります。次の第二回の全米大会で、ミネアポリスのロータリークラブの会

「超我の奉仕」

ベンジャミン・フランク・コリンズ

1911 第二回 全米ロータリー大会 (ポートランド)

演説でコリンズが「無私の奉仕」(Service not Self) を引用

⇒ その後、「無私の奉仕」はいきすぎであるとし、「超我の奉仕」(Service above Self) に修正

人道的奉仕活動の理念



ベンジャミン・フランク・コリンズ

長でありましたベンジャミン・フランクトル・コリンズという方が提唱した原則は、「Service not self」「無私の奉仕」ということを提唱しました。これがロータリーの会員にとって重要であるよという様な思いがありました。この標語は1920年前後に、「人はみな自己を学び守らなければならない。それならば自己を否定するnot selfではなくて、Above selfというふうな言葉に変えられまして、「超我の奉仕」というふうに訳されるようになりました。「無私の奉仕」から「超我の奉仕」ということになってきました。これがこの前項の言葉とこの言葉と「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉と「超我の奉仕」というのが1950年代のデトロイト国際大会において、ロータリーの公式の標語に挙げられることになりました。まあ、ずいぶん経ってからであります、そういう事になりました。その後、アーサー・シェルドンらによってロータリー活動の基本は自分の職業を通しての

奉仕であるという根本原理が定着しました。ここで初めて職業奉仕という言葉が出てまいります。カナダやイギリスにもロータリークラブが結成されたため、1912年に全米ロータリー連合会というアメリカだけではなく、これは組織を国際ロータリーということに変更しております。ここで全ロータリークラブで共通

1912 全米ロータリークラブ連合会→国際ロータリークラブ連合会に改称  
RI会長 グレンC・ミード、名誉会長ポール・ハリスミネソタ州ダールズ大会 50RC会員数6,000人  
アーサー・シェルドンらの努力によってロータリー活動の基本は自分の職業を通しての奉仕であるというロータリーの根本原理が徐々に定着しました

「ロータリーの目的」(「ロータリーの綱領」)を制定する。

- <ロータリークラブの目的 1912年(国際ロータリークラブ連合会: IARC)>
1. 全ての合法的職業は価値あるものであるという認識を深め、社会に奉仕する機会として会員各自の職業を高潔なものにすること
  2. 事業および専門職務の道德的水準を高めるよう奨励すること
  3. 構想や事業運営方法の交換によって各会員の能率を増進すること
  4. 奉仕の一つの機会として、また成功への道として、出会いから交友への必然的な深まりを推進すること
  5. 公共の福祉に対する各会員各自の関心を促し、市の発展のために他の人々と協力すること

- 定款から相互扶助できな、事業上の利益の促進という目的が消滅する
- 職業奉仕の考えがわずかな数年で格段に進歩している

となる模範的約款が承認されましたということです。これはちょっと気に留めてほしいんですけども、国際ロータリークラブの定款が各クラブの定款ではないんですね。これが基本的な模範的な定款として定められて、あとは各クラブで定款を作ってくださいということでもあります。このクラブ定款のロータリーの目的で注目すべき点は、第1項に社会に奉仕する機会としての職業を高潔にとあります。これはシェルドンの考え方そのものでありまして、ここでは地域社会奉仕を奨励するために他の人と協力することと明確に記載されております。また、特筆すべきことはロータリーをお互いの商売に利用しようという相互扶助関係の目的が削除されております。この頃から。職業奉仕とはロータリアン一人一人が例会に出席して他の会員との交流親睦を通してモラルを高め、日常生活では自分の職業に真剣に取り組み、社員はもとより仕入れ先や顧客など、周囲の人々のモラルを向上させて業界の手本となる事だと言われております。ここで倫理訓、道德律というものが出てまいります。1915年のサンフランシスコ大会で、ロータリー倫理訓、道德律という形で表現されるようになりました。これがもととなって、ロータリアンの関係する団体や企業で道德律を制定するようになりました。次の11項目から道德律というのでできているわけですが、後程資料がありますので時間がある時に目を通していただければなというふ

1915 サンフランシスコ大会 ロータリーの倫理訓 (道德律) が採択される

アーサー・シェルドンらの努力によってロータリー活動の基本は自分の職業を通しての奉仕であるというロータリーの根本原理が定着しました。

この職業奉仕の基本理念は1915年のサンフランシスコ大会でロータリー倫理訓(道德律)というかたちで表現された。

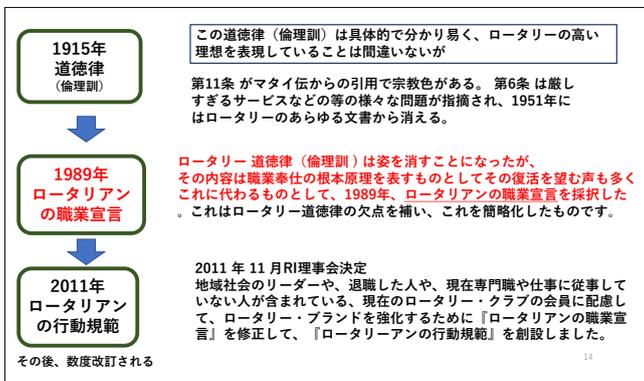
1916年 ガイ・ガンディカーは、「A Talking Knowledge of Rotary」を発行しました。内容は、当時のロータリーの一般奉仕概念とクラブ運営の在り方を体系化したもので、史上初めてのロータリーの教科書・解説書です。この中には「道德律(職業倫理訓)」の全文も掲載されており、世界中のロータリアンに配布されました。



ガイ・ガンディカー (1873-1960)

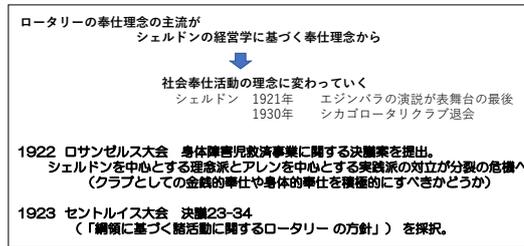
- 道德律 11ヶ条
- 第1. わが職業は価値あるものであり世に奉仕する絶好の機会が与えられていると考えるべきこと。
  - 第2. わが身を修め、わが能率を向上し、わが奉仕を拡大すべきこと。そうすることによって最もよく奉仕するもの最も多く報いられるというロータリーの基本原則に対して忠実なることを立証すべきこと。
  - 第3. われは実業人であり成功の野心を抱いていることを認める。同時に道徳を重んずる人間であり、最高の正義と道徳に基づかざる成功はこれを欲するものではないと自覚すべきこと。
  - 第4. わが商品、わがサービス、わが創意工夫を、利益を目的として他と交換するのは合法にして道徳に基づくとの信念をもつべきこと。ただしすべての当事者がこの交換によって利益を受けることを前提とする。
  - 第5. わが職業の標準を向上させるため最善の努力をいたし、その結果わが業務の進め方は賢明にして利益をもたらすこの事例にならば幸福への道が開かれることを同業者者に悟らしむよう実践すべきこと。
  - 第6. わが競争者と同等ないしそれ以上の完全なサービスをなし得るような方法をもって業務を運営すべきこと。もし疑わしい際には厳格な意味の責任義務を越えて一層のサービスを行うこと。
  - 第7. 専門家あるいは実業人の最大の資産のひとつはその友人であることを理解すべきこと。そして友情を通じて得られたものこそ妥当なものであることを理解すべきである。
  - 第8. ほんとの友人は互いに強要するものではなく、利益のためにみだりに友人の信頼を用いることはロータリーの精神に一致せず道徳律を汚すものである。
  - 第9. 他人が行なわれないような不正の方法によって機会を利用して得た成功は合法的でなく道徳にも反する。また道徳的に疑わしい他人の採らない機会に乗じて得る成功などは欲しないこと。
  - 第10. われは一般人以上にロータリアンたる友人を拘束することはしない。ロータリーの原則は競争ではなく協力であるからである。党派心はロータリーのごとき制度においてはあってはならない。人格はロータリー内に限られるものではなく広く人類一般に深く根ざすものであることを確認し、すべての人や社会制度をこの高遠な理想に向かわしめるためにロータリーは存在するものである。
  - 第11. 最後に「すべて人にせられんと思ふことは人にもその通りせよ」という黄金律の普遍性を信じ、地上の天然資源に対してすべての人に均等な機会を与えられてこそ人類社会は最良の状態になるということを主張するものである。

うに思いますが。これ道德律、これが最終的に四つのテストというふうなところに結びついてくるのかなと思っております。非常にわかりやすくてですね、道徳こうあるべきだというふうに言われておりますが、第6条のところは厳しすぎるということで、現実の問題として指摘されております。また、11条のところはマタイ伝、キリスト教なんですけどもね。マタイ伝からの引用ということもあり宗教色が強いということで、後にはこれが削除されるようになりました。ですので、1項から10項までもし時間がある時に見ていただくと現代に通用する倫理訓というか道德律ということになるかと思えます。次にですね、しかしこの道德律の内容は職業奉仕の根本原理を表すのであるとして、その復活を望む声が後程出てくるわけですけども、これに代わるものとして1989年にロータリアンの職業宣言ということが採択されております。これは、道德律の



欠点を補いこれを簡略化したものでありまして、2011年にはロータリアンの行動規範というものに名称が変わりましたが、この内容についてはほぼ同じような内容で進んできました。1910年代の半ばくらいになりま

すと、奉仕活動の実践を伴わないロータリーの理念に飽き足らず、クラブとしての金銭的奉仕や身体的奉仕の実践を積極的にするべきだという動きが出てまいりました。実践派の先頭に立った方が、身体障害者の保護をやってきたエドガー・アレンという方であります。彼はロータリーが一九一九年になってこういう事業にあたるべきであると主張して、これをRI理事会に提案することになりました。ロータリーの理念を守るべきだという方たちと、実践するべきだという方たちの中での対立が激化してきたわけではありますが、その後1923年頃に、これを理念を伴う実践という形で両方丸く収めるような動きが後に出てくることとなります。ここで出てくるのが、一番最初にお話させていただいた決議23の34第1条ということで、ロータリーの根本的な理念ですよというふうなことで出てきております。ロー



と主張して、これをRI理事会に提案することになりました。ロータリーの理念を守るべきだという方たちと、実践するべきだという方たちの中での対立が激化してきたわけではありますが、その後1923年頃に、これを理念を伴う実践という形で両方丸く収めるような動きが後に出てくることとなります。ここで出てくるのが、一番最初にお話させていただいた決議23の34第1条ということで、ロータリーの根本的な理念ですよというふうなことで出てきております。ロー

決議第23-34 第1条

ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は「超我の奉仕」の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践理論の原則に基づくものである。

決議23-34 (綱領に基づく社活動に関するロータリーの方針)

- 1条 ロータリーは人生哲学
- 2条 ロータークラブの役割
- 3条 国際ロータリー(RI)の役割
- 4条 ロータリーの奉仕は実践哲学である
- 5条 クラブの奉仕活動の自主的な選択の権利
- 6条 奉仕活動の指針

タリーの綱領に基づくすべての各層の指針であると同時に、ロータリーの奉仕理念を表す唯一の文章でもあります。その第1条では、ロータリーの奉仕理念が、すなわち他人の事を思いやり他人の為に尽くそうとする超我の奉仕の哲学と、科学的かつ道徳的な経営方針によって自分の事業の発展を図ると共に、業界全体のモラルを高めていこうという「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という標語に表され、職業奉仕の実践理念に基づくことが明確に定義されております。更にこの決議では、第4条でロータリアン個人にもロータリークラブにも、奉仕の理念に基づく実践が求められるということが述べられております。第6条には、ロータリーの奉仕活動実践は個人奉仕が原則であって、クラブが行う奉仕活動は会員の訓練のための例示に過ぎないということがうたわれております。これはロータリーの本質であるところの、よく言われる

アイサーブとウィサーブというのがあります。ロータリークラブは個人個人の実践の集まりであります。ですから、みんなで何かをするというよりも一人一人がそれぞれの職業の中で、また社会奉仕活動の中で一人一人がやっていくことが大切なんだと。それを支援したり、それを取りまとめていくのがロータリークラブなんだというふうな理念なんだというふうに理解しております。1927年にベルギーの大会でロータリーの奉仕を4部門に分けるようになりました。これが明確に

1927 : ベルギーのオステンド大会で**四大奉仕部門**を承認。(四大奉仕への転換)。  
 「奉仕部門を四大奉仕、すなわち、**クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕**に分けることが決定され、当初、ロータリーの基本理念として一般奉仕概念と呼ばれていたものに、職業奉仕という呼び名が正式に与えられました。  
**道徳律頒布中止**。最初の青少年交換。

1928 : 「**ロータリー財団**」設立。1931年信託組織化。

1929 : **モットー廃止提案**(ダラス大会 29-7)。ロータリー徽章(視穴付き)確定(29-12)。世界恐慌(10月)。

1930 : ロータリー創立 25周年  
 : **ロータリー財団が最初の補助金 500 ドルを拠出**(エドガー・アレンの国際身体障害者協会へ)。  
 シェルドン退会。世界的不景気発生。

1931 : ロータリー財団信託宣言。  
 : 浄財拠出型スマイル開始 (東京 RC)。道徳律頒布禁止。

1932 : **ハーバート・テラー 会社再建のため「四つのテスト」考案し実践する。その後R1理事会は四つのテスト」を職業奉仕の構成要素として採用する)**

**四つのテスト**  
 言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

なってきました。クラブ奉仕、社会奉仕、国際奉仕、職業奉仕という4つのものになっております。職業奉仕はロータリアンがそれぞれの職業を通して他の人々に奉仕し、高い道徳的水準を保つことを奨励するものでありまして、これを職業奉仕というふうに呼びました。シェルドンはそれまでロータリーの基本理念の中にあつた職業奉仕だけに閉じ込められることに失望したとも言われております。更に1929年のダラス国際大会では、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」ということが提案されたんですが、イギリスの代議委員から金銭的な利益の伴うようなモットーはロータリーにふさわしくないという理由から、結果的にはこれが却下されるというふうなことになりました。そんなことでシェルドンが言った「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」ということが否定されるようなことになりましたので、シェルドンは失望してその後クラブを辞めてしまいました。アーサー・シェルドンはロータリーを後に退会して5年後に亡くなってしまふわけですが、**「奉仕の原則と保全の法**

則」という本を最終的には執筆しております。更に、経営者は時間やエネルギー、お金、材料を無駄使いせず、有効に活用して保全することが大切であると付け加えております。これは現代のSDGsに通じるものであると思います。そして、これらを行うことは安心と豊かな実りを獲得するための通り道であると述べております。シェルドンはこの本の発行の1年後に退会して5年後に57歳で亡くなりましたが、彼のお墓には「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉が刻まれているということでありました。シェルドンは設立当時、平凡な社交クラブに過ぎなかったロータリークラブ、親睦のためだったロータリークラブに、経営学に基づいた奉仕の理念を提唱してロータリークラブを今の形のように育て上げてきたんだということでもあります。内容的にちょっとうまく説明できなかったんですが、後程この資料をよく見ていただいたり、いろんな所で検索すると、ロータリークラブの理念だとかそういうものがよく出てくると思います。それから、地区なんかでも職業奉仕セミナーとかを沢山やっておりますし、クラブでもそういう勉強会をやったりもしながら、各個人の会員の職業理念、倫理観を高めて行ったり、奉仕活動との融合性を図ったり、そういう活動をしていくことによって、より白河西ロータリークラブも高い次元で経営活動に参加したり奉仕活動に参加したりすることができるのかなというふうに思っております。これを本日、取り急ぎで資料作成させていただいて卓話に望んだわけですが、自分でも勉強になりました。今までこんなに職業奉仕について勉強したこともなかったんですが、ロータリークラブ、ロータリー活動の草創期、何故ロータリークラブってこんなふうに全世界に広がるようになったのかなということが、何となくわかったような気がします。ただ単に、親睦とそれから相互の仕事を分け与えとか、融通するというそういう事だけではなくて、何かもっとう身がピシッと引き締まるような活動なんだなということを改めて感じさせていただきました。僕も勉強不足ですし話下手なので、なかなかお話皆さんに理解できないところもあったと思いますが、是非こういう事に興味を持って、これからもロータリー活動に専念していただきたいし、また新入会員セミナーなんかでももっと話の上手な方に来ていただいて、ロータリーの基本的な理念を勉強してもらったらなというふうに思います。これを勉強してて思った事、思い出したことがあります。今、ちょっと会から遠ざかっております林利勝さんがいつも経営の理念、ということを非常に強く言っておられました。林利勝さんは一生懸命勉強してたんだな、また経営者としてこうあるべきだということを常に追い求めてい

**シェルドンの最後の本 1929年 「奉仕の原則と保全の法則」**

ロータリーを退会する1年前に発行  
 「He profits most who serves best」が「He profits most who serves and **conserves** best」という新しいフレーズに変えている  
 1929年の世界大恐慌の影響を受けて、奉仕の必要性と共に、**財産、資源を保全する必要性**を説いている

永続的な事業の発展には ➡ 自身の事業を通して社会に貢献する意図をもって事業を営む  
 良好な労働環境の提供は事業者の責務であり、適正な報酬、福利厚生による、快適な生活を保証する事。教育の機会を与える

その代わり 従業員には 最善を尽くして働くこと、過失を最小限に抑える事と  
 会社の管理運営に協力を要請する  
**更に時間やエネルギー、お金、材料を無駄遣いせず有効に活用して、保全する事を付け加える。**

これらは、安心と豊かな実りを獲得するための通り道である。

シェルドンは1年後にロータリー退会し、5年後に57歳で逝去  
 彼のお墓にはHe profits most who serves bestの文字が刻み込まれている

たんだなということを出しました。林利勝さんはまだお元気ですので、何かありましたらまたどこかの機会でお話伺えたらなというふうな思いでこの卓話を閉じたいと思います。つたない話でした。また何かありましたら、ホームミーティングとかそういうのを利用して、みんなで議論しながら勉強していきたいと思っています。ありがとうございました。

#### ○高島裕会長

金田パスト会長、本当にありがとうございました。今、金田パスト会長のほうからもまだまだ私も勉強不足だというようなお話ありましたが、本当にロータリーの内容というのは奥が深いと感じております。お話を聞いてた中で、私が一番これは大切だなと感じたのは、奉仕は個人の実践であってクラブの奉仕は訓練の場だということで、先程金田パスト会長のお話があったように、この内容って多分クラブで奉仕活動してる事っていうのは、最終的に勉強して自社に持ち帰って自社でそれを発揮してくださいというふうな意味なんだと思います。それが多分、地域のため、日本のため、世界のためということで、本当にそれが自分の理念が達成されることが、地域に対して、国に対して、世界に対して奉仕活動に繋がっているんだなということに改めて自覚させていただきました。本当にありがとうございます。

来週のお話をちょっとさせていただきたいと思います。今日、この後理事会でまた最終の提案というか、議案を提出するわけですが、来週は白河第一小学校に移動例会ということで、内容としては地元の子供たち、とくに小学生なんですけど、福島県の食べ物を給食に提供したいということで、地区の財団のほうにお話をさせていただきました。内容としては、食べ物の大切さを知っていただく食育ですね。それから、今現在、世界には食べるものがなくて困ってる子供たちが沢山います。そんな中、日本はどちらかというと食べ物を粗末にしてしまうフードロス、これをなくしていこうということをお子たちに今のうちから植え付けたい。そして、福島県が今風評被害で、食べ物が未だに根強い風評被害でなかなか福島県の食べ物が安全だというふうに感じてもらえない。こんな部分をお子たちにちょっと理解をしていただいてということで、福島県産のサーロインステーキを給食に提供したいということで地区の財団のほうに申請をしましたところ、中目さんあるいは金田さん、矢田部さんの影響もありまして、二つ返事で予算を取っていただけました。本当にありがとうございます。それを来週の移動例会で、我々も子供たちと同じ給食を食べて子供たちにそういった部分をお話を聞いていただいで、最後に

子供たちにアンケートを取ってみたいというふうな感じで、それを結果として地区のほうに報告できたらなというふうに思っております。この流れも今お話のあった職業奉仕の一つだと思います。子供たちにこういった部分で食べてもらって感じてもらうということがありますので、地元の子供たちに我々のできることは小さなことなのかもしれませんが、その子供たちが今度大きくなった時にまたそれを広げてってくれれば、日本そして世界に繋がっていくのかなと感じております。我々のできる事、多分これからもまだまだ沢山あると思います。楽器の寄贈も含め、子供たちにしてあげられること、我々が投資するのはやはり子供たちに投資をする。これが一番だと思います。当然、高齢の方にも投資をするんですが、これから先我々がお世話になる子供たちに投資をする、これは非常に大切な事なのかなというふうに感じております。是非、来週の例会は白河第一小学校でそういった内容で開催します。皆さんこぞってご参加いただければなと感じております。

皆さんにお知らせをしなければいけないお話がありまして、当クラブのパスト会長であります小林義勝さんが体調の不良により昨年12月をもって退会されました。理事会のほうで承認、体調不良ということだったので承認せざるを得ないというような状況でありましたが、小林義勝さんのほうが退会されたことを、この場を借りて皆様にご報告させていただきたいと思っております。本当に野球に関しても、クラブ活動に関しても、大変長い間尽力いただいた小林さんでありましたが、やはり体調不良ということで、私、本人とお会いしたんですが、そんなに思ったほどひどいわけではなく、ちょっと目眩がしたりなんざりということで、なかなか外出も難しいというふうな話を伺いました。なので、理事会のほうに諮らせていただいで、体調不良であればやむなしということで、皆様の賛同を得て退会手続きというふうな形を取らせていただきましたので、今日この場を借りて12月いっぱい退会されたことをご報告させていただきたいと思っております。メンバーが減ってしまうというのは寂しい事ではありますけど、新たなメンバーにまた入っていただいで、白河西ロータリークラブを盛り立てて行けますよう頑張りたいと思っております。是非、皆様のご指導今後ともまたよろしくお願ひしたいと思います。